

2026年8月6日

各位

ジオスター株式会社
代表取締役社長 堀田 穰

2027年3月期第1四半期決算の背景と今後について

1. 2027年3月期第1四半期決算の損益状況

(百万円未満切り捨て)

	売上高	営業利益	経常利益	特別損益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益
2027年3月期 第1四半期	3,475	△146	△120	1,318	802
2026年3月期 第1四半期	5,497	285	301	△4	196
差異	△2,022	△432	△421	1,322	605

主力のセグメント製品の売上高が大幅に減少したこと等から、対前年同期比で減収となり、営業利益及び経常利益は損失計上となりました。なお、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、投資有価証券売却益の特別利益への計上もあり、増加しました。

2. 足元の経営環境と今後の見通し

2026年2月6日に公表いたしました2030年度中期経営計画においては、セグメント製品市場が著しく悪化する厳しい事業環境を想定し、利益率の高い土木製品の売上高をセグメント製品と同程度まで拡大させる製品ポートフォリオの見直しを戦略の一つとして掲げました。

当第1四半期決算が示す通り、セグメント製品市場は、大型プロジェクトの端境期となっており、2026年度及び2027年度の売上高は大きく減少する見通しです。加えて、土木製品においても、用地買収遅れや予算不足による発注遅延・他工法への変更等により、生産量・売上高が減少していることから、極めて厳しいスタートとなっております。

これに対し、下半期以降には、土木製品を中心とした売上高が見込まれており、年度目標数値の達成に努力していく所存であります。

なお、2028年度以降は、大型セグメント製品の需要は回復していくものと考えており、土木既存商品の拡販に加え、土木新分野（防衛・港湾・脱炭素等）開拓が成果を上げ、業績は回復・向上する見通しと考えております。

3. 将来に向けた成長戦略とサステナビリティ経営の推進

企業総合力強化に向けたM&Aの検討、カーボンニュートラル・国土強靱化・安全保障等、新たなニーズを見据えた製品開発・設備投資による将来に向けた成長戦略の検討に加え、人的資本の強化を含むサステナビリティ戦略を着実に推進していく所存です。

今後ともご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

以上